

戦争法案を考える名古屋大学人の集い

昨日 8 月 29 日午後、表題の集いが名古屋大学であった。200 人余の参加者があり、会場に熱気が感じられた。レポートにも書いたが、水田洋先生も会の発起人で発言されると知り、「名古屋大学人」ではないが（法学部・国際開発研究科非常勤講師を長らく勤め、現在は図書館利用者だが）、勇んで参加した。

まず本秀紀さんが基調講演した。短い時間ではあったが、次の 3 点を指摘した。法案審議から見えてきたものとして、「違憲立法」「任せておけ法案」「アメリカの肩代わり法案」という特徴をあげる。議会制民主主義の機能不全のなかで、じつに広範な反対運動に注目する。若者たちの運動に象徴されるように、民主主義の新たな胎動が見られる。「本当に止める」ために何が必要か。国会内における与党多数という状況で、さらなる運動の盛り上げ、民意の可視化が欠かせない。

名大関係者らによる発言のトップに、水田洋先生が演壇に立たれた。間もなく 96 歳になるという先生は、60 年安保の頃の思い出、安倍首相の考え方の問題点などを先生らしく語られた。次いで国際開発研究科長や院生、弁護士、京大教授が発言された。



休憩後に、益川敏英特別教授のビデオメッセージ、二人の元学長・総長、愛教大元学長、卒業生の文章発言、会場からの発言へと続いた。その中で、レポートで紹介した名大生の活動報告、沖縄出身の学生の発言が印象に残った。



最後に、呼びかけ人・世話人の安藤隆穂さんが心に響く話をし、格調ある「戦争法案に反対する声明」を提案して採択された。途中で愛敬浩二さんが「東海圏の大学・学者の運動の現状」が報告したが、残念ながららわが名古屋市大の名が出てこなかった。退職の身としては辛い、時間がかかっても、何とかしたいものだ。

集いに参加して嬉しかったのは、同じ大学人として、元気と刺激をもらえたことだ。それと水田先生にお会いでき、休憩時間にすこしお話しできたことだ。その際、先日のレポートをお渡ししたら喜んでもらった。

(2015 年 8 月 30 日)